

平成 18 年 3 月 16 日

専 13 - 資料 04

第 5 次八戸市総合計画「まちづくりトーク」について(報告)

開催目的

・市民活動サポートセンター「わいぐ」登録団体から、新総合計画に関する政策的な提案をいただく。

開催日時：平成 18 年 3 月 10 日(金) 18:00～20:00

開催場所：八戸市総合福祉会館 4 階 第 1 教室

参加団体：10 団体 18 名(オブザーバー参加 4 名) 計 22 名

テーマ	番号	意見内容
A. 観光・イベント	1	八戸市は2009年市政80周年、八戸港開港70周年である。10年単位で大きなイベントが続くことになる。これを市民力で盛り上げてはどうか。観光振興にもつながるし、市民運動の原動力にもなる。
	2	環境の特区や科学などをテーマとした、八戸の身の丈にあった博覧会があると良い。そういう仕掛けがあると観光振興につながる。
	3	色々なイベントがあるが、開催時期が特定の時期に集中する傾向がある。一方、個々のイベント間の連携ができていないのではないかと。シャトルバスで各会場を回遊できるようにしてはどうか。バスを使えば交通渋滞の問題も回避できる。
	4	新幹線開業時のイベントで感じたことは、せっかく観光客のためにせんべい汁などを用意しても、それを市民が食べていたり来八者に対して「どうぞ」と一言声をかけるような「もてなし」が不足していること。
B. 協働のまちづくり	1	これから市民団体がますます台頭してくると思う。市民団体同士で横の連携を図りたいが、どういう団体がいて、どういう活動をしているのかといった情報が無い。市民団体同士の連携を支援する仕組みが必要である。
	2	新幹線開業の際の「もてなし隊」にボランティアとして参加した経験からは、市民と行政が協働するといっても、意思の疎通がうまくいっていないこと。ボランティアとして現場に出て、問題点や提案を考えても、行政の側にそれを受け止める窓口がない。
	3	ボランティアとして活動するにも、最低限交通費等が支給されないと持続的に活動することが難しい。実費相当は支援してもらえるような仕組みがあると良い。
	4	シニアの人は社会貢献の意欲が高い人がけっこういる。交通費があればいい人、弁当があればいい人、無償でもいい人など多様である。ボランティアについては有償もあれば、無償もあるといった両方があると良い。また、行政からの助成金に頼るだけでなく、市民がお金を出すといったムードをつくりだすことも重要である。そうした市民の出資で基金をつくり、そこからボランティアの車代などが出る仕組みがあると良い。シニアにとっては生き甲斐になる。
	5	ボランティアの有償・無償の問題については、自分たちは無償で良いと思っている。
	6	市民活動サポートセンターは、街なかにある方が良い。市内で交通の便が良いのは中心部である。現在の立地場所では、人が集まりにくい。街なかに市民団体が集うことができれば、それは中心街の活性化にも寄与する。
	7	ボランティアと市民を結ぶコーディネーターの役割も重要である。現状もそういう体制はあるが不十分である。
	8	街なかには、家賃が高く、市民団体が自前で活動の拠点を確保するには負担が大きい。街なかで活動の拠点を確保したい。事務局を確保できないとNPOの認証を取ることもできない。芸術パークは、市民活動の拠点機能も備えることを期待していた。三沢市では、空き店舗を市民団体に斡旋して、市民団体は管理費だけを負担する仕組みがある。
	9	八戸会館は民間施設であるが、市民活動の場として安価に利用できる。街なかでもそういう場所は、探せば結構あるのではないかと。
	10	我々の地域では、多様な分野の地域団体がイベントをはじめとして、相互に協力し合っている。協働のまちづくりのプロジェクトも、縦割りではなくて、まとまったつながりのある中で取り組むべきである。現在の市民連携課の枠を超えた方が良い。また、市内の公民館はホールなど立派な設備を備えており、地域活動の拠点として有効に活用すべきである。
	11	協働のまちづくりは、行政の方も窓口を一本化した方が良い。
	12	協働のまちづくりということであれば、市民団体と行政職員が意見交換をできる機会をもっと増やすべきである。

テーマ	番号	意見内容
C. 環境共生	1	経済活動と環境との調和が重要である。川の水が汚れていることは、魚がとれなくどころの問題ではない。環境の現状を一般の人や子どもたちも十分に理解していないと思う。啓蒙活動を充実する必要がある。
	2	街路樹をはじめとした緑化では、青森県在来の種が使われていない。川沿いの植樹と言えば決まって桜（ソメイヨシノ）となるように、人間のための環境である。また、沢をゴミで埋めて、その上に土をかけて、住宅等にするようなことがおこなわれている。こうした中で在来の貴重・希少種が失われている。計画には、八戸は「自然に恵まれている」と書いてあるが、荒廃している。河川敷の草刈でも、貴重な種がそれで失われることもある。我々自身ももっと認識（勉強）すべきである。環境と教育は重要であり、子供たちが田んぼや、虫・鳥といった生物と触れ合うことが重要である。そうした過程で命の大切さも育まれる。
	3	外来種の問題については、都市部の街路樹はまだ良いとしても、近自然地域では、極めて重要な問題である。外来種が在来種を駆逐することが生じる。生物多様性の確保はわが国の国家戦略の一つでもある。八戸は循環型社会の形成に力を入れているが、根底には自然との共生があることを認識すべきである。
D. 健康づくり	4	高齢社会が到来する中で、市民の健康づくりが重要である。一方で、市内の体育館は午前中などに空きが見られ、有効活用されていない。今後は、市民の健康・体力づくりに力を入れるとともに、既存の施設の有効活用を図るべき。